

①首を支えた立ち抱きから、前後左右にゆすり、抱っこあそびをする



片手はお尻を支えて、しっかりと抱きましょ。はじめのうちはゆっくりと、慣れてきたら、大きくゆすってみましょ。

子がうろたえるか、遊びがなくなるか、泣いてしまうか、未来づくり

②両足首を支えて寝返る、肩がまわり、寝返る

はじめのうちは手がぬけずにおなかの下に入っていることが多いのですが、次第に自分で手をぬいて前に出すようになり、一人で寝返りができるようになります。



③フロントフェイスをする

赤ちゃんを前向きにし、しっかりと支えてフロントフェイスの状態にする。うしろ向きはゆすりましょ。



④手を支え、起き上がりをする

親指を赤ちゃんに握らせて、軽く引いてやると、赤ちゃんが肘を曲げて起き上がろうとします。それに合わせて手を引いてやると、上体を起こし、おすわりの状態まで起き上がります。



0歳児の親子ふれあい体操

4~7ヶ月の運動

親が乳児の扱いに少し馴れてきた4ヶ月頃からできる体操(運動)を紹介します。

体操で育つもの

からだを支えたり、寝返ったりする腹筋力や背筋力、移動しようとする脚筋力、空間認知能力、回転感覚やバランス感覚の向上、親(保護者)と子のコミュニケーションづくり、快の体験と情緒の開放

早稲田大学人間科学学術院 教授/医学博士 前橋 明
〒359-1164 所沢市三ヶ島2-579-15 TEL&FAX 04-2947-6902

⑦転んだまま引っぱる

子どもをおお向きに寝かせて、子どもの両足を握って、ゆっくりと引き寄せます。はじめは座ぶとんの上に寝かせて、座ぶとんと一緒に引っぱってあげてもよいでしょう。



⑥コーキになる



赤ちゃんをうつ伏せにして、両腕を広げ、手のひらを下向きにして、お母さんの手の上にのせます。お母さんは赤ちゃんの手を握らないようにして軽く支えながら、赤ちゃんを反らせます。

⑤高い高いをする

赤ちゃんをしっかりと支え、ことばをかけながら持ち上げてみましょう。



**⑧ 軽い抵抗を
与えても寝返る**

寝返りしようとする赤ちゃんの腰に軽く手をあて、抵抗を与えます。からだの筋肉が発達してくると、軽い抵抗を加えても、がんばって寝返るようになります。



**⑬ 足支え起き
上がりをする**

おお向けに寝た赤ちゃんの両手を片手で握り、もう一方の手で赤ちゃんの足首を軽く押さえ、少し赤ちゃんの手を引くようにすると、赤ちゃんが自力で起き上がることができます。



**体操は
いいことがたくさん!**

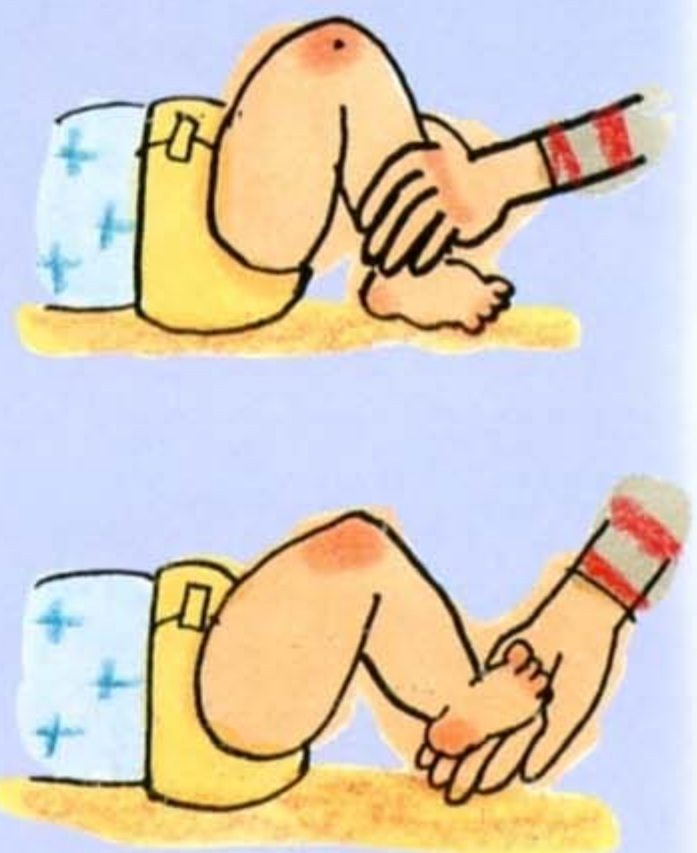
- お金をかけずに、体力づくりができる (体力向上)
- 道具も必要なく、体だけをつかって運動がいっぱいできる
- 子どもが親をひとり占めできる (心の居場所づくり)
- 親が子どもの成長を確認できる
- ふれ合うことで親子のコミュニケーションづくりに役立ち、感情や言葉の発達につながる (社会性づくり)
- 遊び方を工夫することで、知的面の成長にもつながる (学力向上)

夜の運動はNG
夜に体を動かしすぎると、子どもは血液循環がよくなり、かえって眠れなくなってしまいます。仕事から帰ってきたお父さん、夜の運動あそびはぐっとガマンして、体を使ったあそびは、朝起きてから行うのが理想的です。

早稲田大学人間科学学術院 前橋 明 研究室
(04-2947-6902)

⑨ キックをする

赤ちゃんの両膝を曲げて、足首をはさみ、そのまま力を入れて上から押さえます。赤ちゃんは膝を伸ばそうとして、頭の方へ背中ですっと進みます。



**⑩ 胸と足を支え上げると、
足上げ両手つきをする**

赤ちゃんの両足首を片手で支え、もう一方の手を胸の下に回し、赤ちゃんの手は床につけたままで少し持ち上げます。逆立ちをさせることで、視界を変えてあげ、空間感覚を養うこともできます。また、腕の力も強くなります。



**⑪ 膝の上のり、
反り起きをする**

赤ちゃんは喜びます。日常生活で満足度の高い赤ちゃんはよく笑います。笑わない赤ちゃんは積極的に遊んであげましょう。床にボールやぬいぐるみを置いて、後ろに反った時に取らせてみるのもおもしろいです。

シーソーのように「ギットン、バツタン」と声をかけながらくり返すと、



⑫ 立ち抱きゆらゆらをする

お母さんの膝の上に立たせ、左右にゆらゆら揺らしてみよう。

